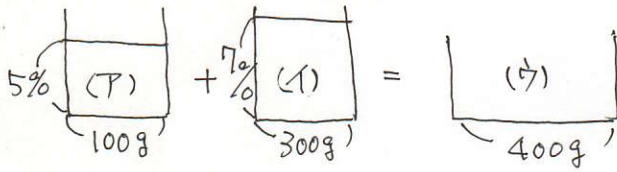


公開模試対策 (入試対策) 解説

[34]

まずビーカー図を書いてみます。

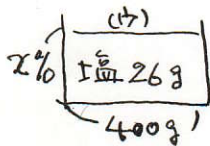


(P) の塩の量 --- $100 \times 0.05 = 5$ (g)

(A) の塩の量 --- $300 \times 0.07 = 21$ (g)

(C) の塩の量は (P) + (A) ですから

$5 + 21 = 26$ (g)

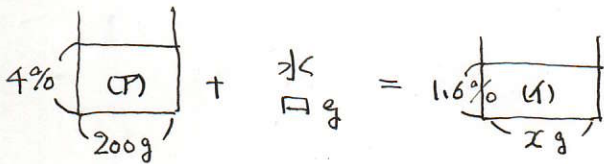


濃度は $\frac{\% \text{を出せば}}{\downarrow \text{は } 100 \text{g}} \text{か } \uparrow \text{です}$
 $26 \div 400 \times 100$
 $= 26 \times 100 \div 400$
 $= 6.5$ (%)

6.5%

[36]

まずビーカー図

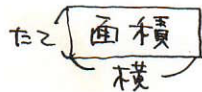
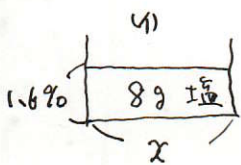


(P) の塩の量は 水を加えても 同じ ですから

(P) の塩の量 = (A) の塩の量

(P) の塩の量 --- $200 \times 0.04 = 8$ (g)

(A) の塩の量



$x = 8 \div 0.016$
 $= 500$ (g)

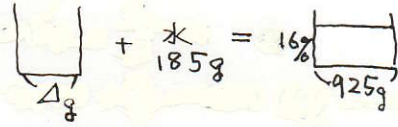
$200 + \square = 500$ より

$\square = 500 - 200$

$= 300$ (g) ... 水の量

300 g

[35]



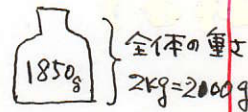
$\Delta + 185 = 925$ より

$\Delta = 925 - 185$
 $= 740$ (g)

これはもとの重さの $\frac{2}{5}$ ですから

$\frac{2}{5}$ が 740g にあたります。

1 は $740 \div \frac{2}{5} = 1850$ (g)

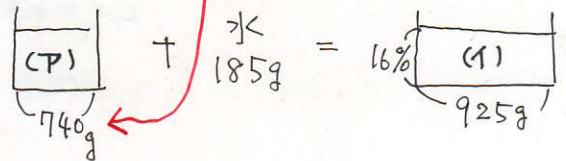


↑
 水の重さ
 中の塩の重さ

(1) 水の重さは
 $2000 - 1850 = 150$ (g)

150 g

(2) ビーカー図を書きます。

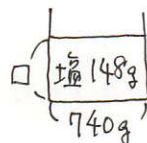


(P) に水を加えても (P) の塩の量は変わらない。

(P) の塩の量 = (A) の塩の量

(A) の塩の量 --- $925 \times 0.16 = 148$ (g)

(P) の塩



濃度は $\frac{\% \text{だから}}{\downarrow}$
 $148 \div 740 \times 100$
 $= 148 \times 100 \div 740$
 $= 20$ (%)

20%

ポイント

• 水を加えても 全体の塩の量は 変わらない。